

かど の 葛野の鐘

図書館報 第14号



京都光華女子大学図書館
2007.4発行
(<http://www.koka.ac.jp/toshokan/>)

(題字は元暦校本萬葉集より集字)



図書館の利用規程が変わりました

貸出冊数が増えました。詳しくは p.4

図書館システムが新しくなりました

OPAC機能が充実しました

マイライブラリ(あなただけのページ)ができました

携帯電話からも蔵書検索ができます



風変わりの組織：大学図書館

図書館長 ^{たに}谷 ^{ぐち}口 ^{とし}敏 ^お夫

図書館には、広い空間にたくさんの机があって、図書や雑誌を棚に並べて書庫に納めて、その間を司書が走りカウンターでは利用者に対面する。司書も奇人変人じゃなくてごく普通の聡明でまじめな人達だ。一見何も変わったところはない。組織としてどこの大学でも、その成立や目的を疑う人は少ない。利用する人たちも図書館を特別な組織、特別な仕組みで成り立つ部門とは、だれも思っていないだろう。

ところが、実に奇妙な組織でもある。たとえば諸般の事情で図書や雑誌を購入出来なくなったとすると、利用者も関係者も「図書館は楽になるでしょう」と思うだろう。一般の社会組織だとそうだ。出版社が出版しなくなり、書店が本を置かなくなったら暇になり大抵潰れる。物

や情報の流れが止まると、組織は意義を見いだせず消える。

ところが図書館は、利用者が僅かにあり、資料を僅かに受け取るだけでも、暇にはならないし、司書は相変わらずあたふたと館内、書庫を駆けめぐる。

図書館は常時「維持する」ことが氷山の底にある組織なのだ。仮に20万冊の図書があり、ここに一冊の図書と付帯情報を繰り込むことは、母体が絶対的に大きいから、想像以上に手間がかかり神経を使う。常に母体との整合性を図りながら、新たな物・情報を組み込んでいく仕事なのだ。図書館は世間や環境を超えて、常時「仕込み」が大切な世界である。

(文学部・全学共通教育センター 情報図書館学)

私 と 図 書 館



好きな図書館

短期大学部 ライフデザイン学科

か のう よし ひさ
加 納 義 久

見知らぬ土地に行って、時間があると町を散策する。その町の中心街、歴史的な建築物、古い町並みなどである。

その中で、興味があるのが、図書館である。散策の途中にあれば必ず立ち寄ってみたいくなる。地方の文化施設のなかで音楽や劇場ホールなどいわゆる箱物ばかりが立派なものが多い中で、生活に直結した図書館のありようがなぜか気になる。

好きなひとつに、淡路島の洲本市の図書館がある。便利な中心部、しかも美術館に隣接した文化的な環境にあって、古いレンガ造りの建物の一部を保存修復した近代的な建物である。開架式図書の閲覧室の一方は芝生の庭に続く木製デッキが、もう一方はレンガの壁

に囲われた桜のシンボルツリーが眺められ、読書用のデスク、椅子の種類にも変化をもたせて、何時間でも過ごしたい空間である。こんな図書館があるのなら、淡路島に住むのもいいなと、思うくらいに町の魅力になっており、何度か訪れた。

また、東京の下町にある都の図書館ではよそ者の私に、その場でカードを作り翌週まで貸し出してもらえたことが印象深い。

最近、近代的な図書館の中には建物と視聴覚設備に力を入れたものがあるが、私には機能的なだけでは魅力を感じない。

行きたくなる、幸せな時間がすごせる図書館は大きな魅力である。(住居環境)



「大学基礎講座」における図書館の利用

文学部 全学共通教育センター

い とう み か
伊 藤 美 加

私は「学習技能の習得」および「学習態度の育成」のための初年次教育の取組として「大学基礎講座I・II」の授業運営に携わっている。この授業では、実際にレポートを書く際などに必要となる、図書館の利用の仕方について説明する機会を2回設け、受講生に対して積極的に図書館を利用するよう指導している。

具体的には、大学図書館の意義の説明、図書の書誌情報の解説を行い、コンピュータを用いた蔵書検索の手順について概説する。そして、光華図書館の特徴と利用の仕方とを実際に知るために、図書館内を实地見分するツアーを行い、図書館の構造や設備、蔵書の種類や配置、特色などを具体的に紹介する。この図書館

ツアーはすごく好評で、たくさんの方が整然と並べられていることなど、高校までの図書室との違いに驚く人が多い。図書館を利用したことがある人もない人も、ツアーに参加して、「図書館のことがよくわかってよかった」「書庫に入れて嬉しかった」「これから利用しようと思った」と授業後に感想を述べている。図書館では、学生が利用しやすいように、毎年何かしら新たな工夫が取り入れられており、その変化に驚くと同時に、学生が図書館へ足を運び、図書館には様々な楽しみ方があることを実感してどんどん利用してほしいと願う。

(認知心理学)

数字で見る図書館の動き

開館状況

| 年度 | 開館日 | 開館日数 | 入館者 | 貸出冊数 | 貸出人数 |
|----|-------------------|------|--------|--------|-------|
| 16 | 16.4.10 ~ 17.3.18 | 249 | 44,115 | 14,456 | 7,595 |
| 17 | 17.4.9 ~ 18.3.24 | 255 | 50,922 | 17,278 | 9,403 |
| 18 | 18.4.7 ~ 19.3.23 | 253 | 53,034 | 16,496 | 9,604 |

年間受入冊数(平成18年度)

| | 和書 | 洋書 | 消耗図書 | 計 |
|-----|-------|-----|-------|-------|
| 購入 | 4,886 | 344 | 1,421 | 6,651 |
| その他 | 215 | 9 | | 224 |
| 計 | 5,101 | 353 | 1,421 | 6,875 |

蔵書冊数(平成19年3月現在)

| | 和書 | 洋書 | 計 |
|----|-----------|----------|-----------|
| 図書 | 約167,300冊 | 約28,200冊 | 約195,500冊 |

相互利用件数

| 年度 | 複写依頼 | 複写受付 | 閲覧依頼 | 閲覧受付 | 貸借依頼 | 貸借受付 |
|----|------|------|------|------|------|------|
| 16 | 272 | 644 | 47 | 44 | 6 | 23 |
| 17 | 352 | 631 | 131 | 43 | 1 | 29 |
| 18 | 304 | 575 | 30 | 58 | 1 | 17 |

所蔵調査件数

| 年度 | 学内調査 | 学外からの依頼 |
|----|------|---------|
| 16 | 282 | 70 |
| 17 | 481 | 69 |
| 18 | 390 | 60 |



私の薦めるこの一冊



『レイチェル・カーソン』(新潮社 2004年)
ポール・ブルックス著 上遠恵子訳

文学部 英語英米文学科 **真 田 達 也**



本書は、レイチェル・カーソンの伝記でもあり、彼女の主要著書のお試し版(部分紹介版)でもある。言ってみれば、一冊でレイチェル・カーソンを2倍知ることができる。平易に読め、しかも内容は濃く、感動的な個所(彼女が最愛の友人に宛てた最後のレターなど)もある。一人の自立した女性がいかに誠実に生きたか、お薦めの一冊!

- 真に偉大なものは、物静かである -

レイチェル・カーソンのことは『沈黙の春』の著者として広く知られているが、『沈黙の春』は巨大企業に敢然と立ち向かって農薬による環境汚染を告発したものである。その著者は「戦闘的な猛女」だと思われるがちである。しかし、実際のレイチェル・カーソンは物静かなレディーだった。

- 科学と詩の両立 -

レイチェル・カーソンは、小さいときから作家を志し、大学入学時は英文学を学び後で生物学専攻に転向した。女性がそうであることが難しい時代に、科学者であり連邦政府公務員であり続け着実に成果を上げた。一方、作家になる夢を追求し、科学者の目と詩人の心を両立させた彼女固有の領域を確立し、『われらをめぐる海』によってベストセラー作家となった。

- 使命感と成就 -

レイチェル・カーソンは、最終的には生命に対する畏敬の念と生態系の重要性の認識を人びとに植えつけることに使命感を感じるに至る。癌の進行と闘い、文字通り命を削って『沈黙の春』を完成し世に送り出した。片や、家庭の責務も全うしている。

- 偉大なものを伝えようとする -

本書『レイチェル・カーソン』の著者は、レイチェル・カーソンと個人的に親交のあった人物で、淡々とした語りの中に、彼女に対する深い敬愛の情が感じられる。真に偉大なものに触れた人は、後世の人びとにそれを伝えることに使命感を感じる。本書を世に出す原動力となっているのは、真に偉大なもの(=レイチェル・カーソンの生涯と著作物)を後世に伝えようとする意思である。

- 真実と努力が織り成す人間の営為 -

かくして、真に偉大なものは、伝えようとする者の努力によって後世に伝わる。真実と努力が織り成す人間のさまざまな営為に思いを馳せてほしい。(観光学)

289.53 / CaRa 3階閲覧室



少年にとって「鬼」とは?
『鬼の橋』伊藤遊著(福音館 1998年)

人間関係学部 人間関係学科 **徳 田 仁 子**



「鬼」とは辞書によれば、もともとは隠れて人の目には見えないものの意(「隠」で死者の靈魂の意らしい。思春期の少年にとって鬼とは何だろう。

「鬼の橋」は京都東山の六道珍皇寺に奉られている小野篁が閻魔庁の冥官として冥界と現世を自由に行き来したという伝説を基にした物語、第三回児童文学ファンタジー大賞を受賞した作品である。

篁は異母妹を死なせてしまったという後悔の念から立ち直れず、虚ろな心を抱えていた。ある日妹の亡くなった井戸を通して冥界と現世の境にある川の河原まで行き、川にかかる橋の上で征夷大將軍坂上田村麻呂と出会う。彼は「死後も都を守れ」との命のため、死者の国に行くこともできず橋の番人を務めていた。篁には中途半端な死を許さず現世に送り返す。

帰宅途中の篁は五条大橋を守ろうとしている少女阿子那と出会う。橋を守ったのは非天丸という片方のツノをもぎ取られた鬼であった。その後阿子那と非天丸は親子のように互いにいたわり合って暮らし始める。

物語は篁と阿子那と非天丸の3人の友情を横系に、篁と父親(及び將軍)との関係の変化を縦系として、心の癒しと成長の物語として描かれている。篁にとっては阿子那が妹の代理として守るべき純粋な存在となるにつれて、篁の心も前向きエネルギーを取り戻していく。そして非天丸も鬼らしさが抜けて人間らしくなっていく。少年にとっての「鬼」そして「鬼の橋」という言葉にどのような思いが込められているのか、様々な見方で味わって欲しい名作である。(臨床心理学)

913.6 / IYu 1階閲覧室

‡ Topics 1 ‡

平成18年度(第41回)佛教図書館協会総会を開催

平成18年7月14日(金)午後1時30分より本学が当番校を務め、慈光館6階太子堂にて佛教図書館協会総会を開催いたしました。19校33名の出席がありました。議事終了後の研修では講演を行いました。

講演 「聖徳太子(574~622)
“世間虚仮・唯仏是真”の一考察」
講師 京都光華女子大学短期大学部教授 可藤 豊文氏



図書館と私

英語英米文学科 平成17年度卒業 **嘉住 奈穂子**



私が図書館のヘビーユーザーになったのは入学したてすぐの頃からだったと思う。図書館は私にとって、自分の世界に浸れる最高の場所だった。私が利用するコーナーは二階の京都コーナか旅関係のコーナー、もしくは一階の雑誌コーナーとほぼお決まりコースだった。本の中の世界の風景を楽しんだり、様々な人の自伝やエッセイなどを読み、個々の世界観に感嘆したり、時には名言を見つけ自分の将来について考えてみたりと、今考えたら内にこもっていながら自分の世界を広げたいと一番何にでも興味を示した頃のように思う。

卒業学年になる頃には、卒業論文を書く為、読みたいと思っている本ばかり読めなくなっていた。けれど

も、今まで読まなかった分野の本を読む様になり、新たに世界が広がったと思う。

その中でも司書の方々の協力、助言には今でも感謝している。『嘉住さんが読みたい本、こんなんちゃう？』と紹介してもらったり、論文や新聞記事が検索できる便利で役立つ図書館内にあるサービスを紹介してもらったり、行き詰まった時には私の性格上の事を考えて、こうした方がいいのでは？などアドバイスを頂いたり、私にとって図書館はただ本の貸し借りの場所でなかった様に思う。図書館を利用している皆様にも自分なりの図書館利用方法を見つけて図書館をもっと身近に感じてもらいたいと思う。

現旧教職員（非常勤を含む）

- 朝比奈 英夫**
研究叢書 新撰万葉集注釈 巻上(2)
- 飯沼 万里子**
イラクの小さな橋を渡って
- 小國 英夫**
新・高齢者福祉概論
- 加藤 実**
偉大なるシルクロードの遺産 他
- 神谷 かをる**
平安時代世俗画の研究 他
- 河原 俊昭**
自治体の言語サービス 他
- 佐藤 和喜雄**
精神保健学
- 澤井 律之**
台湾原住民文学選2 故郷に生きる
- 高木 英明**
必携学校小六法 2007年版

寄贈図書一覧（平成18年1月～12月受入）

- 高屋 慶一郎**
アメリカの政治的伝統 1 他
- 竹西 正典**
手続きの公正の自己価値性
- 野上 俊子**
重要無形民俗文化財 壬生狂言 他
- 野田 泰三**
上賀茂のもり・やしろ・まつり 他
- 狭間 芳樹**
宗教学のエッセンス 他
- 福島 栄寿**
戦争と宗教
- 前田 樹男**
高経年マンションとその周辺地域における高齢者と子育て家族に対する居住支援
- 松本 雅彦**
精神病理学とはなんだろうか 他
- 三村 晃功**
記念論集 松籟 王朝の文学と表現

寄贈者の50音順（敬称略）

- 妻 鹿 ふみ子**
なぜボランティアか？ 他
- 吉村 裕美**
太宰文学の女性像
- F.アボット**
西本願寺展 御影堂平成大修復事業記念
- 在学生・卒業生・学園関係者 他**
- 山内 頌子**
詩集 うさぎの鼻のようで抱きたい
- 小泉 洋**
静雲 小泉道追想録

図書の詳細はOPACで調べることができます。
1階光華コーナーにも現旧教職員の寄贈図書があります。
この他に、学外の方からも多数の図書をご寄贈いただきました。改めて御礼申し上げます。

Topics 2

「生き方探究・チャレンジ体験」を実施

5月22日(月)～26日(金)の5日間「生き方探究・チャレンジ体験」で西京極中学校の生徒4名が図書館に來られました。カウンター業務、書架整理、本の装備などの仕事体験をしていただきました。生徒たちからは普段できないことが体験できたと好評でした。



Information

貸出冊数の変更について

今年度より図書館利用規定が変更され、貸出冊数が増えました。

| | 旧 | 新 |
|-----|---------|---------|
| 教職員 | 25冊 | 30冊 |
| 院 生 | 10冊 | 20冊 |
| 学 生 | 5冊 | 10冊 |
| 社会人 | 2冊(1週間) | 3冊(2週間) |

マイライブラリについて

マイライブラリとは図書館からの連絡事項を確認したり、現在の状況を参照したりできる個人のページです。ホームページから利用できます。登録の受付はカウンターで随時行っています。

4月9日(月)午前9時より平常開館します。

編集後記

ご寄稿くださいました皆様には心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひ致します。